

十勝川水系自然再生検討会（第2回） 議事要旨

■日 時：令和5年6月15日（木）9：40～12：00

■場 所：とがち館 1階 玉葉の間

■出席者：

（会場）中村委員長、赤坂委員、石原委員、卜部委員、柳川委員、山岡委員、渡邊委員

（WEB）泉委員、大串委員、柿沼委員、根岸委員、森委員（以上12名、全委員出席）

※委員長以降の順は会場・WEB参加者別に五十音順

■議題

- （1）第1回の議事内容の確認
- （2）自然環境の変化に関するインパクトレスポンスについて
- （3）地域社会へ貢献する自然再生に向けて
- （4）自然再生の目標について

■議事要旨

- （1）第1回の議事内容の確認

第1回十勝川水系自然再生検討会（令和5年3月22日）の議事内容について事務局から説明した。これに対し各委員が確認された。

- （2）自然環境の変化に関するインパクトレスポンスについて

各河川の課題に関し、インパクトとレスポンスの関係について事務局から説明した。これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・砂州は浚渫によって減少したが、最近は復活してきている。エコトーンにはどのように影響しているのか。（委員）
→今後空中写真等のデータを確認し、技術検討会で議論したい。（事務局）
- ・音更川では、下流の市街地では河岸部に護岸が多く設置されている。上流側は堤防側に法線を引いて護岸を設置している。これらを区別して整理したほうが良い。（委員）
→整理して、次回に報告する。（事務局）
- ・樹林と礫河原の面積の変化のグラフでは、これらの合計値が徐々に増えているが、それはなぜなのか。（委員）
→読み取れるようにグラフを整理する。（事務局）

- ・5年、10年先の人と生物との関係を考えると、これ以上増えないほうがよい生物、増えてよい生物を考慮した指標設定も考えられる。(委員)
- ・インパクトレスポンスについて、河川毎の個別の整理だけでなく解析結果の繋がりを全体像として示してほしい。(委員長)
- ・霞堤に求める機能を明確にしたほうがよい。(委員)
- ・洪水時の氾濫戻しや貯留機能、通常時の市民の憩いの場など求める機能を整理するとよい。(委員長)
- ・今後、自然再生でどのような対策が可能かを議論できるよう、河道内の生息場や利用地の面積の内訳について可能な範囲で数値化してほしい。(委員)
- ・基幹防風林など、河川管理者がコントロール出来ないものは検討対象から除外した方がよいのではないか。(委員)

(3) 地域社会へ貢献する自然再生に向けて

自然再生の実施によって期待される地域社会への貢献について事務局から説明した。これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・自然再生箇所は礫河原や霞堤などを地域の子どものための教育に活用でき、地域への愛着につながられる。子供の頃から環境教育を通じていろいろなことを知り、観光客を受け入れるための取組に地元住民の理解や協力が得られる体制になるとよい。(委員)
- ・観光によって地域経済を活性化することだけでなく、来訪者が新たな視点を提供し、地域の人々が経済的な恩恵を受けられる、そういった関係がよい。(委員長)
- ・十勝では地域の方々が強い愛着を持って自然再生に取り組んできており、地域づくりにつながられるポテンシャルが高いと感じている。(委員)
- ・アウトドア観光に対する可能性については、関係する団体とどう連携できるかが非常に大事である。(委員)
- ・帯広市が環境モデル都市に選定されたのは、前身に、帯広市を森で囲う田園都市を目指した「帯広の森構想」があったからである。十勝川の河畔林と札内川の河畔林がそのベルトの一部に位置づけられている。帯広市と連携はできないか。(委員)
→過去の取組を確認し、帯広市とも相談しながら進めていきたい。(事務局)

- ・河川から見た周辺樹林帯への接続度合いを数値化し、これに基づいて堤内・堤外における保全活動を進めていくといった評価軸があるとよい。(委員)
→情報を整理して検討したい。(事務局)
- ・河畔林が発達すると生き物が戻ってきて、河畔域周辺の農地の害虫を食べる効果があり、収量にも影響する。間接的に農業にも貢献できる。(委員)
- ・自然再生による水産業への貢献についても示してはどうか。河口域周辺の湿地やワンドの回復は、サケにプラスに働くと思われる。(委員)

(4) 自然再生の目標について

十勝川水系における自然再生の目標について事務局から説明した。これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・評価指標の「サケ科魚類の産卵場確保」と「回遊魚の遡上・移動範囲」は違うのか整理が必要である。(委員)
- ・まず生息場の回復目標を掲げ、その結果として生物が戻ることを期待し、さらに社会に対する生態系サービス等を記載するといった整理が必要である。(委員長)
- ・景観の変化がしっかりと評価されるように記載してほしい。(委員)
- ・住んでいる人間にとって、こんな良い事があるという分かり易い指標があると良い。(委員)
- ・生物の反応は、場の変化に対して遅れて出てくると思うので、どういった場が達成され、どういった生物が応答してくるかというつながりを体系立てて整理した方が良い。(委員)

以 上